

米国からの骨髄液の緊急特別輸送について

米国同時多発テロ事件の影響によって、米国から日本に届けられる予定であった3件の骨髄の採取が延期となっておりますが、日本骨髄バンク（骨髄移植推進財団）は緊急対応として民間チャーター便によって緊急輸送を行うこととしました。3人の骨髄提供者（ドナー）からの骨髄液は15日、午後7時30分ごろに羽田空港に到着します。

米国同時多発テロ事件の直後に、米国ドナーから採取された骨髄液が米国から日本に運搬され、日本の患者に提供される事例が3件予定されておりました。しかし、事件発生後の飛行制限により、その予定通りの採取・運搬が不可能となりました。

骨髄液を受け取る予定であった3人の患者さんたちは、自分の造血機能をいったん破壊する「前処置」（注1）を終えており、骨髄液が速やかに届かないときには致命的な結果になりかねない状況となりました。

事件により航空便の運航が停止されたため、この3件の骨髄採取はいったん延期され、輸送ルートの確保が検討されておりました。骨髄ドナーの方は提供意思が強く、日程調整に全面的に協力くださいました。全米骨髄バンク（NMDP）が輸送ルートの確保に全力を尽くした結果、特別チャーター便の利用案が浮上しました。民間定期便の動向を見据えながら、日本時間13日深夜（14日午前0時すぎ）の段階で、米国の一部の空港が開いたものの、航空機の出発と席の確保の確実性が見込めない状況から、骨髄液を待つ患者のために一刻も早く確実に運搬を遂行するためには、チャーター便によって3件の骨髄液をいっしょに輸送することが最適と判断したものです。

日本の患者さんは関東地区の方が2人、近畿地区の方が1人です。骨髄液は当初予定の2、3日遅れで到着することになりました。今夜、順次、患者への骨髄移植（輸注）が実施されます。

米国ドナーの方々、NMDPのみなさん、骨髄液採取を担当された病院関係者、輸送運搬を行った人々、特別機受け入れに配慮をいただいた日本政府関係者——本件に関わられた多くの関係者に、当財団は、心より感謝いたします。

チャーター便の費用は13万5000ドル（約1600万円）です。日本骨髄バンクでは、テロ事件によって発生した不測の事態による費用ですので、これを患者・施設に請求することはしない考えです。この輸送経費につきましては、特殊事情から、広く国民の皆様から深いご理解をいただきたいとお願い申し上げます。

（チャーター便募金のおねがい <http://www.jmdp.or.jp/bokin.html>）

注1：前処置＝ドナーの骨髄液を患者に輸注する前に、患者の造血機能を破壊するため、抗がん剤投与や放射線照射を行うこと。そこにドナーの骨髄液を輸注することで、ドナーの造血機能が患者のなかで働くようになる。

【ご参考】

日本の骨髓バンクは米国、台湾、韓国の3つの骨髓バンクと提携をしており、これまで海外から98の骨髓液を受け取り、52の骨髓液を海外へ提供しています。米国からの提供は今回の3例を含めて、97年4月の提携開始より82例となりました。

ドナーの方とアメリカへの感謝のメッセージ

2001年9月15日

財団法人骨髓移植推進財団

理事長 高久 史磨

企画管理委員長 小寺 良尚

国際担当企画管理委員 岡本 真一郎

事務局長 埴岡 健一

3日前の9月11日朝（日本時間12日夜）に起きた、突然の忌まわしくも卑劣なテロ事件に見舞われた貴国の皆様に、日本骨髓バンクを代表して深く哀悼の意を表します。このような、未曾有の混乱と困難の下にありながら、貴国の皆様の勇気と支援活動はいささかも揺るぎのないものでありました。米国の皆様の一日も早い回復を心から祈っております。

日米両国の骨髓バンクは、これまで両国83人の白血病患者などの方々に、生きるチャンスを相互に提供しあってきました。そして、本日、全米骨髓バンク（NMDP）関係者の大変な努力により、米国ドナー3人の方々より、3名の日本人患者に骨髓液が提供され、患者さんに生きる希望が与えられることになりました。

全米骨髓バンクは、11日のテロ事件発生により全米の航空路線が全面的休止するという非常事態の中にあっても、「患者の命は全力で救う」という使命感に基づき、組織一丸であらゆる困難を乗り越え、昨日までの3日間にチャーター便と特別な陸上輸送により20件の骨髓液輸送を行ったことです。この中には、米国内にとどまらず、非常事態のなかにあっても、欧州などへもチャーター便を送り出し、世界の患者さんのために貢献されています。

そして、本日、非常な困難と悲しみの最中にあっても、国を超えて人間の命を救おうという、気高い人類愛に満ちた米国の3人のドナーの方々により、私ども日本の3人に生きる命の贈り物「骨髓液」を提供くださいました。全米骨髓バンク、米国ドナーの方々、骨髓液採取された病院関係者、輸送に関わられたチャーター機のクルー、そして、米国政府関係者の皆様に心からの感謝と敬意の気持ちをお伝えいたします。本当にありがとうございました。

今後とも、両国のあたたかな友情、相互の助け合いが深まりますことを心から願っております。